

広報 Public relations of mikawa town

みかわ

令和2年
2020

9 No.763
September

Contents

- ▶知事と若者の地域創生ミーティング in 三川町
- ▶子ども広場(東郷小学校)
- ▶まちかど写真館
- ▶町観光協会SNSで情報発信中!
- ▶食のみかわおしながき

笑顔つながる協働のまち ハートフルタウン **みかわ**

もうすぐ食べごろ

物産館マイデル運営協議会生産
「シャインマスカット」



知事 × 若者

町民が考えるこれからの“まちづくり”とは？



知事と若者の地域創生 ミーティングを開催しました！

8月21日(金)、三川町子育て交流施設「テオトル」を会場に、「知事と若者の地域創生ミーティング」を開催しました。

これは、若者の豊かな発想や行動力を地域づくりに生かしていくため、吉村美栄子 山形県知事が各市町村に赴き、若者が力を発揮できる環境づくりや地域課題、定住促進、地域の元氣創出策などについて、若者たちと対話を行いながら、明日の地域創生を考えることを目的に実施しています。



吉村知事と司会を務めた阿部町長



ミーティングは終始
和やかな雰囲気の中で行われた

町を盛り上げるために

この日のミーティングには高校生、農家や地元企業の代表者、子育て世代の女性など、さまざまな分野で活躍している町内在住の10代〜40代の若者10人が参加し、思い思いのテーマで吉村知事と語り合いました。

参加者は、産業の発展や賑わいの創出、若者や子育て世代のコミュニティ形成をテーマに、「この町がこうなったらいいな」というイメージや、「こんなことに取り組んでいる」という活動の事例を紹介しました。



～若者がいきいきと輝く町に～

吉村知事は、ミーティングの中で参加者一人ひとりの意見に耳を傾け、「これからの時代、ソーシャルディスタンスがあっても、オンラインが主流になっても、人と人の『心』が離れないように周囲との関わりがさらに重要になる。三川が暮らしやすい町になるよう、今後も継続して活動し、お互いに刺激を受けながら一緒に成長を続けてほしい」とエールを送りました。



参加者の意見を紹介します

山形の知名度アップと雇用の創出を

インバウンド^(※)向けの旅行プロモーション会社の代表を務める山科沙織さんは、観光振興と経営者の視点から意見を述べました。

ア フターコロナでは、山形のような自然豊かな場所の観光需要が高まると思います。そこで重要になるのは山形の知名度を上げること、インバウンドの受入体制を整備することです。現在は地元業者と連携し、旅行者に総合的に満足して帰ってもらえる体制づくりを進めています。

同時に、若者が活躍できる場や雇用の場づくりにも取り組みたいと思っています。進学や就職で一度は県外に出る若者は多いのですが、自分の経験や技術を生かし、お金を稼げる環境が山形にもあるということを認識してもらえると、若者が戻ってきやすくなります。自分がその受け皿になれるよう仕事の幅を広げたいと思っています。



企業代表
山科 沙織さん

地域の情報発信に力を

地域おこし協力隊として、三川を知ってもらおうきっかけ作りに入れている伊藤秀和さんは、これまでの活動と今後について述べました。

2 年前の5月に東京から三川に移住し、町の地域おこし協力隊として町産業振興課や町観光協会の業務に携わりながら活動してきました。

庄内地域は食の宝庫であったり、子育てしやすい環境があったりと、さまざまな魅力を感じながら生活しています。そういった中で、移住者という「外からの視点」は、時に新たな発見があり、その視点から地域の魅力を探し出し、ブログやSNS、ラジオの番組などを通じて、情報を外部に発信しています。

また、方言などの地域に根付く言葉の文化も地域の魅力の一つと感じています。自分自身が庄内弁を理解し、庄内弁の良さということも発信していきたいと思っています。



地域おこし協力隊
伊藤 秀和さん

美しい風景をいつまでも

高校1年生の成澤妃乃さんは、地元・三川町の発展と豊かな自然がいつまでも残るようにという視点から意見を述べました。

三 川は本当に住み心地が良く、足りないところは何もないと感じています。だからこそ、三川に住む人が多くなっただけだと考えています。人口が多くなることで町全体が賑やかになるなど、良い影響があると思います。

その一方で、美しい水田の広がる風景を守ることも必要と感じています。人口増加のために、宅地開発を進めることは重要ですが、景観を守りながら暮らしやすい地域づくりが進んでほしいとも思います。

新しい住宅地や商業施設の開発も進んでいますが、自然との共存を目指し、商業施設の中にも自然を増やすなど、三川の豊かな田園風景を守りながら快適に暮らせる環境づくりをお願いします。



鶴岡北高校1年
成澤 妃乃さん



庄内総合高校 1年
かたぎり 片桐 未夢さん

ボランティア活動を通して

高校1年生の片桐未夢さんは、ボランティアサークルの代表を務めています。多くの人から三川町に関心を持ってもらいたいという思いを持っています。

私

はこれからの三川に若者が増え、たくさんの人から三川に関心を持ってもらいたいと思っています。

そのために、中学1年生の時から町の中高生ボランティアサークル「来夢（らいむ）」で活動してきました。ボランティア活動では小さな子どもからお年寄りの方々まで幅広い年代の方々と交流できます。

活動を通して三川でしかできない経験を積み重ね、情報発信をしていくことで三川への興味・関心を持ってもらうきっかけになればと考えています。

また、私たちと同世代のたくさんの方が「三川に住み続けたい」と思える町であってほしいと思いつながり活動しています。

若者の定着に向けて

町野伸也さんは、建設会社の代表として業種のイメージ改善や、地域の若者と協力しながら地域活性化に取り組んでいます。

建

設業は若者の関心が集まりにくかったり、職に就いても定着しなかったりという課題を抱えています。若者の心をつかむため、SNSなどを活用して写真や動画によるプロモーション活動を行いながら、建設業のイメージアップに向けた取り組みに力を入れています。

その他の活動として、地域活性化のためにイベントなどを主催する団体を立ち上げ、昨年度は婚活イベントを開催しました。今年度は交流活動が難しい状況にあるので、町のPRキャラクター「みかわん」を起用した町の年間カレンダー作りを進めています。

また、将来的には庄内で主流のみそ味の芋煮を広める「庄内芋煮フェスティバル」を企画したいと考えています。



企業代表
まちの しんや
町野 伸也さん

地元業者の雇用で地元定着へ

榎木晴紀さんも建設会社の代表として、業種のイメージ改善に取り組んでいる一人です。

建

設業は社会インフラの整備や維持補修など、地域にとって欠かせない産業だと思っています。

しかし、首都圏への一極集中の傾向が強く、地方においては高齢化による労働者の減少や技術の消失を実感しています。

若い人材の確保に向けて、若者から建設業に興味を持ってもらうため、建設業協会や教育機関などと連携して、職場体験などの就業促進活動や、学生と共同での清掃ボランティアなどに取り組んでいます。参加者から回答してもらったアンケートでは、良好な回答が得られ、活動の成果を感じているところ です。

若者の「地元就職」と「地元定着」が人材流出の歯止めの一助となり、若い世代が地域を盛り上げていってくださらと思うています。



企業代表
えのき はるき
榎木 晴紀さん

持続可能な農業の仕組みをつくる

有機栽培（アイガモ農法）で水稻を栽培する齋藤学さんは、農業人口の減少を危惧しながらも、持続可能な農業のあり方を求めて農業に取り組んでいます。

三

川は米の有機栽培が盛んであり、有機栽培が占める栽培面積や有機栽培に取り組む農家数の割合は県内でもトップクラスとなっています。

しかし、現在、町内で有機栽培に取り組む農家のほとんどが65歳以上の高齢者であり、現在と同規模の栽培面積を維持していくのは難しい状態となっています。

有機栽培は、手作業での除草に時間と労力がかかるという問題点があり、その問題を解決するため、機械除草機の導入や、AIを使った除草方法を取り入れ、労働力の向上に向けた検証を進めているところです。

実用化を目指し、栽培面積の維持と若手の労働力確保、そして農薬を使わない環境にやさしい農業を維持できたらと思っています。



農業
さいとう まなぶ
齋藤 学さん

外に目を向け発展を

農家の石栗聡さんは、農業の発展に向けた活動に率先して取り組んでいます。また、農村地域特有の「役回り」についての考えを述べました。

私 は、長く農業を続けてきました。が、毎日ただ農業をしているだけでは発展が限定的になると思います。先進地への視察などを行っています。

新たに計画していた海外への視察はコロナ禍で足踏み状態となってしまいました。が、他の地域に目を向けることが自分の地域の発展にもつながると信じ、こうした活動には積極的に取り組みたいと思っています。

また、農協の青年部や生産組合などさまざまな「役」を務めています。こうした組織の役回りについて、公平な負担となるような仕組みづくりが必要と感じています。

前任者や経験者が後盾をしながら、若者が持ち回りで「役」を務めることで、地域を共に支え合う仕組みを確立していきたいと思っています。



農業
いしくり 石栗 聡さん



子育て支援センター支援員
まちの さとみ 町野 聡美さん

地域の方々と共に子育てを

町野聡美さんは、子育て支援センターの支援員、そして4児の母として、地域での支え合いの必要性を感じながら子育てに取り組んでいます。

最 近は、町外から三川に移り住む方々が多いと感じています。

身近に頼れる人がいないという環境で子育てをしている人もいる中、子育て情報を共有できる場をつくること、3年前に子育てサークルを立ち上げました。地域の方々の協力を得ながら活動することもあり、良い交流の場になっています。

また、現在は7月にオープンしたテオトル内の子育て支援センターの支援員として、子育てに悩みを抱えている方々の肩の荷が少しでも下りるような環境づくりを目指し、仕事をしています。

支援センターの利用者が笑顔になるよう工夫しながら、皆さんの子育てのサポートを頑張っていきたいと思っています。

学び合い、応援し合える環境を

2児の母でもある菅原明香さんは、子育て中の女性が活躍できる居場所が必要と感じ、自らそのコミュニティづくりを実践しています。

子 育てと仕事の両立のためには、仕事と家庭を切り離し過ぎない環境づくりが大切です。

例えば、私の周りのコミュニティでは、「仕事の面で自分が参加したいイベントや勉強会には子どもと一緒に参加する」、「親だけが子どもの面倒を見るわけではなく、参加者同士で子どもの面倒を見る」といった環境づくりを実践しています。

こうした環境で、大人が学び、行動する姿を子どもに見せることは、生涯を通して学びを深めることの楽しさ、大切さを子どもに伝えることにもつながります。

「子どもがいるから参加できない」ではなく、仕事の面でも子育て機能を取り入れたコミュニティを地域に広げていきたいと思っています。



自営業
すがわら さやか 菅原 明香さん



子どもも広場

ひろは

東郷小学校
より

創る×つなげる×磨く→楽しむ

東郷小学校では今年度、「創る×つなげる×磨く→楽しむ」を合言葉に、学校生活を送っています。

「創る」と「つなげる」は、昨年度のキーワードでもあります。自分で考えて行動することを子どもたちが意識し、より良い学校生活を自らの手で創ること、まわりの友だちと心をつなげて、自分の世界を広げることを目標にしてきました。

今年度は、さらに「磨く」という言葉を加え、3つの言葉を掛け合わせて生まれる「楽しさ」を学校生活の中に見出すことを目指しています。

☆創る(総合・生活科)

2年生以上の総合・生活科の学習では、各学年とも自分たちで課題を考え、追究する活動が進んでいます。

2年生の「町たんけん」や3年生の「赤川探検隊」、5年生の「TOGO環境プログラム2020」は、子どもたちが自ら計画を立て、実際に校外に出て活動をしています。



2年生:「町たんけん」
きのこ培養センターを見学しました。



3年生:「赤川探検隊」
清掃活動を行いました。



5年生:「TOGO環境プログラム2020」
海岸実地調査を行いました。

町長コラム 「誠・心・誠・意」



住民の安全確保のために

8月20日(木)、三川町役場を会場に、知事と庄内管内市町長による意見交換会が行われました。

この会では、7月の大雨による被害の状況と対策、新型コロナウイルス感染症に関する現状と対応という2点について、吉村知事と各市町長の間で意見を交わしました。

本町としては、7月の大雨で32年振りの増水で被害のあった青山地区周辺の青竜寺川や、赤川河川敷に大量に漂着したごみの状況と今後必要となる対応を説明した上で、住民の命を守るための避難行動のあり方についての意見を述べたところです。

7月の大雨被害においては、大きな人的被害がなかったことは不幸中

の幸いであり、これは住民の皆さまの防災意識が高まってきていることが理由であると感じています。

雨の降り方が変わってきているとも捉えられる昨今では、自治体が発する避難情報を注視するだけでなく、住民の皆さまが自主的に避難行動を取ろうとする意識をさらに高めることも、重要であると考えています。

町としては、そういった体制の確立に向けて、自主防災会と連携した防災訓練などを行っているところでもありますが、住民の皆さまはこうした機会への積極的な参加をお願いします。

また、新型コロナウイルス感染症についても、事態の長期化は避けられないという中で、これまでも度々お願いしてきたところではありますが、予防対策を万全にすることが第一と考えています。

山形県では「新型コロナウイルス予防の手引き」を作成し、県内全世界への全戸配布を予定しています。お手元に届いた際にはご一読いただき、ウイルスについての理解を深め、確実に予防対策を実践されるよう改めてお願いします。

☆つなげる(1年生生活科)

「学校のひみつみたいー!」

1年生は「学校たんけん」から東郷小の秘密を見つけてクイズにし、6年生を相手にクイズ大会を開くという活動に取り組みました。その後、6年生が音楽の学習で取り組んでいた合奏を1年生にプレゼントするというお返しをして、1年生と6年生のつながりがさらに強くなりました。

☆磨く(対話による学習)

フェイスシールドを使って感染症対策を行いながら、「対話」による学習を行っています。クラスの中で話し合うことで、話を聞く力、思いを伝える力、考える力を磨いています。

臨時休校明けの5月から始まった今年度の学校生活は、感染症対策を考慮しなければならず、活動を進める中での制限が多くなっています。こうした状況下だからこそ、「できる」ではなく「どうやったらできるか」という点を工夫しながら日々の活動を送っています。

1学期は、厳しい環境の中でも、活動の取り組み方を工夫し、どの学年も「創る」「つなげる」「磨く」を実践しながら学校生活を「楽しむ」ことができました。

今後、まわりの友だちと心をつなげ、「優しく賢く逞しい東郷っ子」として成長できるよう楽しい学校の環境づくりを行っています。



1年生:「学校たんけん」
6年生を相手に
難問クイズ大会を開きました。



4年生:図工「光と影」
みんなと協力して
影を作ります。



6年生:授業の様子
グループで学び合い
考えを深めます。

三河文芸コーナー

俳壇



力無きセミにめがけて小鳥一羽

火葬待つ少年哀れ長崎忌

手入れ終え枝先清し夕端居

老い独り料理洗濯墓参り

虫たちの夜の競演処暑の頃

日照り空豊作思いカーテン引く

風鈴に仲良しの風来て遊ぶ

ひとしきり屋根打つ音や梅雨出水

大根播き命かけての老夫婦

コスモスの中で華やぐ子等の声

歌壇

限り無く愛してくれた母思い一生懸命私は生きる

豪雨にて川は氾濫我が畑も濁流にのまれ大河のごとし

花に寄る虫もいつしか陰ひそめ七月豪雨の爪跡を見む

長雨に畑の野菜は不作でも被災地思えばまだ増しなりき

巡りくる七十五回目の暑き夏遠くなりゆく遺族とふ言葉

猛暑なか季節のうつり忘れつつ夜の静間に蟋蟀の鳴く

土間のすみに虫の音聞きし今朝方にはや青桐の落葉目立ちぬ

小林 裕

飯野 藤子

春山 夏海

菅原たけお

庄野すみれ

丸岡利喜雄

工藤ひろし

斎藤 優

佐藤 誠爾

荘司 博子

土田 秀

齋藤与次雄

佐藤 顕

佐藤 博政

齋藤 久繁

前田キヌエ

五十嵐松男

8/25
(水)

コミュニティ活動の活性化を目指し
宝くじの助成金で
防災資機材の充実



横川町内会では、(一財)自治総合センターの宝くじの社会貢献広報事業(コミュニティ助成事業)を活用し、防災資機材を整備しました。

今回整備した機材は、発電機や照明器具などの機材一式とリヤカーで、停電時などでも住民の安全・安心を守るために活用されます。

9/6
(日)

やってみるとなかなか難しい
スリッパ卓球交流会



9月6日(日)、町民体育館でスリッパ卓球交流大会(みかわスポーツクラブ主催)が行われ、10代から70代まで幅広い年代の方々が参加しました。

参加者からは「思ったよりもボールが飛ばず難しい」、「普通の卓球よりもやりやすい」などさまざまな声が聞かれ、初めは慣れないスリッパのラケットの扱いに苦労しながらも、徐々に扱いに慣れてくると白熱した試合が繰り広げられていました。



子どもたちの安全を守るために
(株)ロックが不織布マスク
1万枚を寄贈

8/20
(木)



町内のショッピングセンター「ル・パークみかわ」の管理運営などを手掛ける不動産業の(株)ロック(鶴岡市)から、不織布マスク1万枚が寄贈されました。

8月20日(木)に役場で贈呈式が行われ、同社の金子正幸代表取締役社長が「新しい生活様式の実践が求められる中でも、三川町の子どもたちが健やかに成長できることを願っている」とあいさつし、阿部町長が目録を受け取りました。

マスクは、小・中学校の児童・生徒に配布させていただきます。

まちかど
写真館

子育て支援センター事業
英語で遊ぼう!

8/27
(木)



8月27日(木)、子育て支援センターのイベント「英語で遊ぼう!」が行われ、町内外から親子11組が参加しました。

講師が「いないいないばあ」や「グーチョキパーで何つくろう」などの曲を英語で歌いながらジェスチャーのお手本を見せると、子どもたちも笑顔で真似をしていました。

子育て支援センターでは、このように親子で楽しめるイベントを企画し、毎月2回程度開催しています。イベントの詳細は子育て支援センターのホームページをご覧ください。

地域おこし協力隊の つぶやき

三川町地域おこし協力隊の
直近の活動について紹介します



←伊藤さんのブログはこちらから。
広報では紹介しきれない情報も
盛りだくさん!

少し前のことになりましたが、7月22日(水)、「にこにこカフェ」に参加してきました。

にこにこカフェは、認知症予防のため、高齢者や地域の方々がお茶を飲みながら交流する場で、町内で認知症サポーター養成講座の講師を務める「にこにこメイト」の皆さんが中心となって開催されています。

にこにこカフェでは、参加者の皆さんが楽しめるよう、にこにこメイトの皆さんが毎回さまざまなアトラクションを用意しています。今回は、往年のアイドルに扮して行う寸劇「長寿早押しクイズ」や、体操などを一緒に行いました。

お饅頭とお茶を傍らに、にこにこメイトの方々の笑いにどん欲な演技を見ながら終始笑っぱなしの楽し

い時間を過ごしました。

笑うことは、免疫力アップや脳の活性化、運動効果などが期待できるとも言われています。「笑う門には福来たる」ということわざがあるように、参加者の皆さんの笑い声に包まれながら、それを実感できるような楽しい場でした。

大人になると子どものように本気で笑える機会が減ってしまうように感じますが、にこにこメイトの皆さんのように、地域の方々と一緒にいつまでも笑い合える場を大事にして過ごしていきたいですね。



【このコラムを書いている人】



三川町地域おこし協力隊
伊藤 秀和
いとう ひでかず

三川の旬な情報をお届け 町観光協会 SNS で情報発信中! /

町観光協会では、SNSを活用して町のさまざまな情報を発信しています。旬の特産品の情報や、「菜の花むすめ」の活動の様子などをご覧いただけます。ぜひご覧ください。

「いいね」「フォロー」
お待ちしております!

菜の花
むすめの
活動を
チェック!

SNS アカウントのご紹介

▶ Instagram

名前：山形県三川町観光協会@みかわん
I D：mikawakankou

▶ Facebook

名前：山形県三川町観光協会
I D：mikawakankou

▶ Twitter

名前：山形県三川町観光協会@みかわん
I D：mikawakankou



三川の
食材の
情報など
をお届け!

○問合せ先 三川町観光協会 ☎66-4656
🌐<https://mikawa-nanohana.net/>

保 けんぽは 健師です

Public health nurse information

9月は「健康増進普及月間」です
がん検診を受けましょう

日本人の死亡原因の第1位は「がん」で、死因全体の約3割を占めています。また、がんにかかる人の割合は「2人に1人」と言われるほど、年々増えています。

三川町の状況

平成30年の結果では、がんの死因のうち、特に多いのが胃がん・肺がん・大腸がんでした。

がんは定期的に検診を受けることで早期に発見できると言われていますが、本町のがん検診の受診者数はここ数年、徐々に減少しています。

がん検診を受けましょう

町では、肺がん、胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がんの各種がん検診を実施しています。これらのがんは、検診による早期発見が有効であり、40歳以上（子宮がんは20歳以上）の方に受診をお勧めしています。職場の健診項目にがん検診が含ま

れていない方は、ぜひ町のがん検診をご利用ください。

精密検査は必ず受けましょう

検診後、結果に異常があった方の精密検査受診率が低く、特に大腸がんの精密検査は、男性の受診率が低くなっています。検診結果で精密検査が必要な場合は、必ず受診しましょう。

がんから身を守るのは自分自身

（がん予防12か条）

- 第1条 たばこは吸わない
- 第2条 他人のたばこの煙を避ける
- 第3条 お酒はほどほどに
- 第4条 バランスのとれた食生活を
- 第5条 塩辛い食品は控えめに
- 第6条 野菜や果物は豊富に
- 第7条 適度に運動を
- 第8条 適切な体重維持
- 第9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 第10条 定期的ながん検診を
- 第11条 身体の異常に気がいたら、すぐに受診を
- 第12条 正しいがん情報でがんを知ることから

○がん検診の申込み・問合せ先
役場健康福祉課 健康係

☎ 35-7032



みかわ環境つうしん

Mikawa Environment Newsletter

【今月のテーマ】
ごみの減量化に
取り組みましょう

家庭ごみ排出量 599g/人・日

山形県の「1人1日当たりの家庭ごみの排出量(平成30年度)」は528gです。本町は599gで、県平均より71g(13.4%)多くなっています。

「ごみゼロやまがた県民運動」を実践しよう

山形県と本町では、ごみの減量化を目指して「ごみゼロやまがた県民運動」を推進しています。右の3つの運動を実践し、ごみの減量化に向けて一緒に取り組みましょう。

◆プラスチックごみ削減運動



◆食品ロス削減運動



◆ごみの分別・削減徹底運動



【ごみ収集量実績】	8月収集量		対前年度増加率
	R2年度(R元年度)		
も や す ご み	142.42t (154.81t)		▲8.00%
プラスチック製容器包装類・ペットボトル	4.20t (4.20t)		0.00%
び ん ・ 缶	5.44t (4.65t)		16.99%
金 属 ・ そ の 他	3.03t (4.24t)		▲28.54%
廃蛍光管・廃乾電池等	0.17t (0.30t)		▲43.33%
合 計	155.26t (168.20t)		▲7.69%

○問合せ先 役場建設環境課 環境整備係 ☎ 35-7036



**三川町育英奨学資金貸付
希望者追加募集**

- 募集締切り 10月16日(金)まで
 - 決定時期 11月中旬に審査結果通知予定
 - 貸付対象 町内に住所を有する方の子で、意欲的に勉学に励もうとする学生
 - 追加貸付人数 若干名
 - 償還方法 卒業後10年以内に償還(無利子)
 - 貸付金額 大学5万円以内(月額)、高専1万5千円以内(月額)、高校1万円以内(月額)
 - 申込み・問合せ先 役場教育委員会教育課 学校教育係
- ☎35-7022

**家屋の新増築・取り壊しの
申し出のお願い**

次の条件に該当する方は、ご連絡くださるようお願いいたします。

- ◆今年、家屋の新増築・取り壊しをされた方で、まだ町の確認を受けていない方
- ◆今年中に家屋の新増築・取り壊しを計画している方

※賦課期日(翌年1月1日)までに取り壊しをされた方で、申し出がなかったり、遅れたりした場合、引き続き固定資産税が課税される場合がありますので、ご注意ください。

- 連絡・問合せ先 役場町民課 税務係
- ☎35-7026



**がん検診があなたの命を守ります
がん検診受診向上キャンペーン**

いきいき健康フェア、山形県女性のがん検診受診率向上事業との同時開催です。

- 日時 10月3日(土) 午前10時～午後4時
- 会場 イオンモール三川
- 内容 知って得するがん・がん検診の情報展示、がん・健康づくりクイズ(景品あり)、専門員に

よるがん・健康に関する相談

- 参加費 無料
 - 主催 三川町・鶴岡市・庄内町・酒田市・遊佐町
 - 問合せ先 役場健康福祉課 健康係
- ☎35-7032

**年長児おやこクッキング
参加者募集**

- 日時 10月11日(日)
 - 日 ①午前10時～ ②午後1時30分～
 - 会場 三川町公民館 調理実習室
 - 対象 年長児とその保護者
 - 定員 各回先着7組(定員になり次第締切り)
 - 持ち物 エプロン・三角巾・手ふきタオル・スプーン・箸・牛乳パック2枚
 - 申込み締切り 9月28日(月)まで
 - 申込み・問合せ先 役場健康福祉課 健康係
- ☎35-7033



秋の交通安全県民運動を行います

- 期間 9月21日(月)～30日(水)
- 運動の重点

子どもをはじめとする歩行者の安全と自転車の安全利用の確保

- ・高齢運転者等の安全運転の励行
 - ・夕暮れ時と夜間の交通事故防止と飲酒運転等の危険運転の防止
 - 問合せ先 役場総務課 危機管理係
- ☎35-7010

山形県司法書士会「相続登記センター」をご利用ください

山形県司法書士会では、「相続問題」を気軽に相談できる窓口として、相続登記センターを開設しています。

- 「相続登記を頼みたい」、「生前贈与、遺言をしたい」、「相続放棄をしたい」などの相続に関する手続きでお悩みの方に、お近くの司法書士を紹介いたします。
 - 開設日 毎週月～金曜日(土・日・曜日、祝日、年末年始は休み)
 - 対応時間 午前9時～午後5時
 - 利用方法
 - ・受付電話番号(☎0120-954-153)にお電話ください。
 - ・最寄りの司法書士を紹介いたしますので、紹介先と日程調整の上、紹介先事務所で面談を行ってください。
 - ・依頼料、相談料は紹介先と直接ご相談ください。
 - 問合せ先 山形県司法書士会 総合相談センター
- ☎023-642-3434

赤川揚水機場撤去工事に伴う交通規制変更のお知らせ

赤川揚水機場施設の撤去工事に伴い、田田大橋北側の県道333号において、仮の道路への迂回をお願いしてきていたところですが、**9月18日(金)から元の道路を解放**します。なお、解放後も仮の道路を撤去するため、片側交互規制を行いますので、引き続き工事に対するご理解とご協力をお願いします。

○問合せ先 酒田河川国道事務所 赤川出張所

☎ 23 - 2032



9月24日から30日は「結核予防週間」です

日本の結核の現状は、罹患率、死亡率ともに先進諸国の中で高い状況にあり、今でも1日に50人の新しい患者が発生し、5人が命を落とすなど、決して過去の病気ではありません。

結核に関する正しい知識を持ち、結核予防に心掛けましょう。

○結核はこんな病気です

結核は、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。重症の結核患者のせきなどで結核菌が飛び散り、周りの人がそれを直接吸い込むことで感染します。ただし、結核に感染しても必ず発病するわけではなく、通常は免疫力により結核菌の増殖を抑え込みます。免疫力で結核菌の増殖を抑えきれなくなると結核を発病します。



○結核の初期症状は次のとおりです

- ・せきが2週間以上長引く
- ・たんや血たんが出る
- ・胸が痛い
- ・微熱が続く
- ・体重が急に減少する(高齢者の場合にはこの症状しか現れないことも多い)

○「おかしいな」と思ったら、早めに受診しましょう

早期発見は本人の重症化を防ぐだけでなく、家族や職場などへの感染の拡大を防ぐためにも重要です。結核の初期症状と思われる症状が現れたら、早めに医療機関を受診しましょう。

○予防のポイントは

結核の発病を防ぐには、免疫力の低下につながる不規則な生活を避け、規則正しい生活を心掛けましょう。また、定期的に健康診断を受け、胸部エックス線検査で結核の兆候がないかをチェックしましょう。会社などで、こうした検査がない場合は、ぜひ町の検診を受診ください。

○問合せ先 役場健康福祉課 健康係 ☎ 35 - 7032

広告

ハピネスモ〜ル

さらに便利になりました! / **新! イオンモールアプリ**

イオンモールアプリ

- * アプリのダウンロード&お気に入り登録で生活応援クーポンプレゼント!
- * 毎週末「ダウンロードありがとうプレゼント」実施中。アプリで配信されたクーポンをご呈示ください。

今すぐダウンロード!

<https://www.aeon.jp/sc/aeonmallapp/>

イオンモールアプリ

イオンモール三川 TEL 0235-68-1600 <http://www.aeon.jp/sc/mikawa/>

「田田の宿」内和食処 **なな味 和室会食**

ご予約 ☎ 66-4150

- 7日前までご予約ください
- ご予算に応じて3,000~10,000円まで承ります。

3密対策実施中

ゆったりスペース
イス席でのご宴会

送迎バス無料
お料理 3,000円~
10名様以上

ドリンクアウト弁当 1,000円
前日18時まで要予約
2個~注文受付
10個~配達できます

オードブル 5,000円

おまかせ料理 3,800円
飲み放題プランもあり

いろいろ火の里 株式会社みかわ振興公社 66-4833 (代表)

あの頃のみかわ

今から50年前のみかわ【昭和45年(1970年)9月】

このコーナーは、過去の広報を振り返り、当時の三川を紹介するコーナーです。今回は、今から50年前の昭和45年9月に発行された広報です。

この広報では、5年に一度行われる国勢調査の話題に触れています。当時の数値と最新の数値を比較してみると、「人口は減っているのに世帯数は増えている」という特徴に真っ先に目がいきます。現在では、住宅街やアパートが新しく整備され、若い世帯の増加をうれしく思う一方、空き家等が増加するなど、新たな課題も生まれています。国勢調査の結果からは、そういった時代の変化を感じることができます。

本年は令和2年国勢調査を実施します。パソコンやスマートフォンによるオンライン回答が可能となっていますので、皆さまの回答をよろしくお願いいたします。

【昭和45年8月31日現在の総人口：9,147人】



休日夜間診療のお知らせ

「発熱や咳など、風邪の症状が続いている方」「息苦しさや強いだるさ、高熱等のいずれかの症状がある方」は、診療所を受診する前に**新型コロナ受診相談センター ☎0120-88-0006(毎日24時間対応)**にお電話ください。

鶴岡市 場所：鶴岡市総合保健福祉センター「にこ♥ふる」内（鶴岡市泉町5-30）

◆ 休日夜間診療所 ◆ ☎ 23 - 5678	開所日	診療科	受付時間
	下記以外の月曜日～土曜日	内科、小児科	19:00～21:30
日曜日、祝日（振替休日含む）、 年末年始（12月31日～1月3日）	内科、小児科	9:00～11:30	
	内科、小児科、外科	13:30～16:30	
	内科、小児科	18:00～20:30	

※午後（夜間含む）の小児科は、内科医による診察です。

酒田市 場所：酒田市民健康センター別館（酒田市船場町二丁目1-31）

◆ 休日診療所 ◆ ☎ 0234 - 21 - 5225	開所日	診療科	受付時間
	日曜日、祝日（振替休日含む）、 年末年始（12月31日～1月3日）	内科、小児科、外科	8:30～11:30 13:00～16:30

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

令和2年8月届出（敬称略）

阿部 末(84歳) 横山中 齋藤はつ子(75歳) 押切下町
 五十嵐喜美子(87歳) 土橋 本間 徳治(94歳) 助川
 工藤 英記(72歳) 三本木 加藤 征子(81歳) 押切下町
 前田 實(87歳) 東 沼

ご家族等から広報掲載の承諾をいただいた方のみ掲載しています。

ふるさと応援寄附金ありがとうございました

8月分 1,626人

お名前と住所地は町ホームページで公開していますので、ご覧ください。

ご寄附ありがとうございました

地域福祉活動に役立ててほしいと、次の方から三川町社会福祉協議会にご寄附いただきました。

阿部 正幸様（横山中）

◁ 人口の動き ▷
 (令和2年8月末現在)
 () 内前月比

■人口数/7,389人(減9人) 男3,618人(減3人) 女3,771人(減6人)
 増減の内訳 ・転入4人・転出▲10人・出生6人・死亡▲9人
 ■世帯数/2,452戸(増2戸)



食のみかわ おしながき

食改さんの料理紹介 No.20



「食のみかわ おしながき」では、生活改善推進員（通称：食改）さんの料理のレシピを紹介いたします。

今月のおすすめ一品目

チヂミ

1人分栄養量

- ・エネルギー…………… 348 kcal
- ・食塩相当量…………… 2.0 g

材料（生地4枚分）

- ・ニラ…1束 ・玉ねぎ…2分の1個
- ・長ねぎ…2分の1本 ・にんじん…40g
- ・イカ…2杯（胴1枚は二品目に）
- ・ごま油…小さじ4
- ・生地（薄力粉200g、水250cc、塩小さじ2分の1、卵1個、桜エビ大さじ1、白炒りごま大さじ1、ごま油大さじ1）

材料（たれ）

- ・醤油…大さじ2 ・酢……………大さじ1
- ・砂糖…小さじ1 ・ごま…小さじ2分の1
- ・ごま油…小さじ2分の1

作り方（生地）

- ①ボウルに薄力粉と水を入れて混ぜる。

混ぜたらほかの材料を入れて混ぜ合わせ、しばらく置く。

- ②ニラは約3cm幅、玉ねぎは薄切り、長ねぎは斜め薄切り、にんじんは千切りにし、①のボウルに入れる。

- ③イカをさばいて、エンペラと胴、足に分ける。胴は丸まらないように表面に隠し包丁を入れる。

- ④イカを食べやすい大きさに切り、②のボウルに入れて野菜と一緒に混ぜる。
- ⑤フライパンにごま油（小さじ1）を引き、生地の4分の1を入れて薄く広げる。

- ⑥蓋をして焼き色がつくまで焼き、裏返してさらに焼く。焼き上がったら皿に盛り、食べやすいように4等分に切る。（残りの生地も同じように焼く）

作り方（たれ）

- ①器に醤油、酢、砂糖を入れ、よく混ぜる。
- ②砂糖が溶けたらごま、ごま油を入れる。（お好みでラー油を入れてもOK）



今月のおすすめ二品目

イカとわかめの酢味噌和え

1人分栄養量

- ・エネルギー…………… 74 kcal
- ・食塩相当量…………… 1.4 g

材料（2人分）

- ・イカ…胴1枚
- ・乾燥わかめ…3g
- ・エリンギ…100g
- ・長ねぎ…4分の1本
- ・A（味噌大さじ1、砂糖小さじ2、小さじ2）

作り方

- ①乾燥わかめを水で戻す。戻ったらしっかりと水気を切る。
- ②長ねぎは斜め薄切りにしておく。
- ③イカは1cm幅の短冊切りにしてザルに入れる。
- ④エリンギもイカと同じ大きさに切り、③のザルに入れる。
- ⑤鍋にお湯を沸かし、ザルごと入れてエリンギとイカに火を通す。
- ⑥Aを合わせて、食べる直前に全ての食材と和える。



表・紙・の・写・真

もうすぐ食べごろ「シャインマスカット」

「三川の新たな特産品に」と、物産館マイデル運営協議会の方々がシャインマスカットやピオーネなどのぶどう類の栽培に取り組んでいます。水稻育苗用のビニールハウスを利活用して5年前から栽培を始め、昨年ごろからようやく出荷できるほどの数が採れるようになったそうです。

シャインマスカットは、10月初旬には物産館マイデルの直売所コーナーに並ぶ予定とのことです。旬の味覚を味わってみてはいかがでしょうか。



本紙掲載の記事、写真等の無断転載を禁じます。